

# 皿倉登山鉄道株式会社

## I 法人の概要（平成 31 年 4 月 1 日現在）

### 1 所在地

北九州市八幡東区大字尾倉 1481 番地の 1

### 2 設立年月日

昭和 32 年 3 月 1 日

### 3 代表者

代表取締役社長 吉田 茂人（令和元年 6 月 28 日就任）

### 4 資本金

10,000 千円

### 5 北九州市の出資金

10,000 千円（出資の割合 100.0%）

### 6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	11 人	0 人	1 人	10 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	10 人	0 人	0 人	10 人
職 員	6 人	0 人	1 人	5 人

### 7 市からのミッション

本市の代表的な観光地の一つである皿倉山山頂への唯一の公共交通手段である皿倉山ケーブルカー等を運行することで、産業観光や夜景観光の誘致など皿倉山周辺地区への本市の観光戦略の一翼を担う。

## II 平成 30 年度事業実績

当社は、皿倉山においてケーブルカー及びスロープカー施設を市から借り受けて運行している。あわせて皿倉山頂展望台の管理運営業務等を市から受託している。

平成 30 年度も前年度に引き続き、ホテルへの優待券配布、福祉施設団体・保育所等に対する無料送迎サービス、旅行社等への売り込み・連携、夏のビアガーデンを始め四季折々のイベントの実施及びマスコミ・雑誌等への積極的なPR活動を行う中で、集客対策に努め、皿倉山の賑わいを創出した。

### 1 輸送人員

輸送人員は、7月の豪雨や台風の影響にもかかわらず、北九州市が10月5日に「日本新三大夜景都市」に選定されたことや10月28日から台湾と北九州空港間での定期便就航、並びに韓国からの団体客の堅調な受け入れ等により、ケーブルカーでは前年比約17千人、8.0%増の228,676人となった。スロープカーでは、前年比約14千人、7.8%増の200,682人となった。

## 2 営業損益

営業収益は、1億4,738万円（前期比723万円増）となった。

営業費は1億2,416万円（前期比396万円増）となり、当期の営業損益は2,322万円（前期比16.4%・328万円増）の黒字となった。

## 3 経常損益

上記営業損益に営業外損益を加えた当期の経常損益は、2,480万円（前期比15.25%・328万円増）の黒字となった。

## 4 当期純損益

上記経常損益から特別損益を加え、法人税等を差し引いた当期純損益では、前期比318万円増の2,472万円の黒字となった。

### Ⅲ 平成 30 年度決算

#### 1 貸借対照表

平成 31 年 3 月 31 日現在 (単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
( 資 産 の 部 )		( 負 債 の 部 )	
流 動 資 産	159,622,664	流 動 負 債	32,312,489
現金及び預金	135,250,434	買 掛 金	3,200
未 収 運 賃	46,440	一年内返済予定長期借入金	5,099,999
未 収 入 金	19,705,296	未 払 金	23,100,968
商 品	235,460	預 り 金	103,482
貯 蔵 品	4,339,800	仮 受 金	60,640
立 替 金	12,254	未 払 法 人 税 等	81,000
前 払 費 用	32,980	未 払 消 費 税 等	2,680,200
		賞 与 引 当 金	1,183,000
固 定 資 産	12,524,398	固 定 負 債	52,270,014
鋼索鉄道事業固定資産	10,791,166	長 期 借 入 金	51,200,014
その他事業固定資産	1,583,342	退 職 給 付 引 当 金	1,070,000
投資その他の資産	149,890		
出 資 金	10,000	負 債 合 計	84,582,503
長期前払費用	139,890	( 純 資 産 の 部 )	
		株 主 資 本	87,564,559
		資 本 金	10,000,000
		利 益 余 剰 金	77,564,559
		その他利益剰余金	77,564,559
		繰越利益剰余金	77,564,559
		(うち当期純利益)	24,718,882
		純 資 産 合 計	87,564,559
資 産 合 計	172,147,062	負 債 ・ 純 資 産 合 計	172,147,062

## 2 損益計算書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日 (単位: 円)

科 目	金 額	
鋼 索 鉄 道 事 業		
営 業 収 益	100,392,495	
営 業 費	100,925,113	
営 業 損 失		532,618
そ の 他 事 業		
営 業 収 益	46,983,739	
営 業 費	23,234,242	
営 業 利 益		23,749,497
全 事 業 営 業 利 益		23,216,879
営 業 外 収 益		1,807,067
受 取 利 息 及 び 配 当 金	28,300	
雑 収 入	1,778,767	
営 業 外 費 用		224,062
支 払 利 息	214,899	
雑 支 出	9,163	
経 常 利 益		24,799,884
特 別 損 失		2
固 定 資 産 売 却 損	2	
税 引 前 当 期 純 利 益		24,799,882
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税		81,000
当 期 純 利 益		24,718,882

## IV 令和元年度事業計画

平成 22 年度からの「経営改善計画」に基づき、平成 23 年度に市からの出資金の減資の実施により、それまでの 16 億円を超える累積損失を一掃するとともに、平成 24 年度には減価償却費、維持管理費等の軽減を図るため、ケーブルカー等の事業資産の市への資産譲渡を行った。

この資産譲渡にともなう減損処理により生じた欠損金についても、経営改善計画に基づく配置人員の見直しによる大幅な人件費の削減や営業強化による収益の向上などにより、平成 27 年度末には解消した。

平成 24 年度以降毎年安定して利益を計上しており、来期も引き続き、経営の効率化、利用者サービスの向上、皿倉山の観光振興に努める。また、ケーブルカー、スロープカーの運行にあたっては、安全を第一に良質な運行サービスを提供するために、引き続き以下の項目について重点的に取り組む。

### 1 「経営改善計画」の継続と人材の育成

経営改善計画に基づき、効率的・適正な運行・業務執行体制のための改善を継続していくとともに事業継続のための人材の育成に努める。

### 2 安全運行遵守

「令和元年度無事故達成」をスローガンに、①安全意識醸成、日常的な現場巡視による実情の把握と業務マニュアルの実践・遵守の徹底、②車両、運転施設の徹底的な点検、整備の実践、③同種事業や関連会社との情報交換会などの研修を通じたスキルアップを図る。

### 3 増客、増収対策

利用客 20 万人の目標を達成した前年度を超える実績をあげるため、以下の事業に取り組む。

#### (1) 「恋人の聖地」のPR、夜景の魅力発信

全国ブランドの恋人の聖地プロジェクトに参画し、併せてケーブルカー神社（恋愛成就、安全祈願等）を設置しており、恋人の聖地とのタイアップによる話題づくりを行いながら、引き続き全国に皿倉山と「新日本三大夜景」「日本夜景遺産」としての夜景の魅力を発信していく。

#### (2) イベント等企画事業

皿倉山の知名度の向上と環境学習・レジャースポットとしての定着を目指し、皿倉山の特性・優位性（夏は涼しい、景色、夜景、四季の変化）を活かすとともに、イベントを体系的・連続して実施することにより、認知度の向上と費用対効果の改善を図る。

毎年マスコミにも大きく取り上げられ好評の「星空ビアガーデン」や「森のがっこう」「観望会（天体観測）」「サタデーナイトライブ」「ミュージックフェスタ（バンド大集合）」「仲秋のお月見会」「皿倉山で愛をさけぼう大声コンテスト」「クリスマスライブ」「バレンタイン大作戦」「パワースポットめぐり」「湯けむりトレッキング」等のイベントや、山形大学と連携して市民向けの「星空案内人資格認定講座」を引き続き実施する。

また、イベントの実施にあたっては、市・区役所及び帆柱自然公園愛護会、地域団体等との連携をより深めていく。

### (3) 集客・広報の取り組み

利用が定着した無料送迎サービスやホテル優待を継続するとともに、多くのホテルとの連携により宿泊パック商品等の普及を促進する。また、県内小学校を対象に遠足・社会見学先として誘致する。さらに福岡市ならびに近隣市町村へのPRの強化や実績の上がりつつある韓国・台湾・香港等外国人客の取り込みのために現地旅行社との連携を更に強化する。

CATVやラジオ番組CM提供、JR小倉駅や福岡市天神の街頭ビジョンへの広告掲示とともに、ダイレクトメール、新聞、テレビ、情報誌、市広報紙のほか、ラジオ、インターネット等各種メディアへのイベント・営業情報等タイムリーで積極的なPRを行う。

### (4) 夜間運行の実施

平成30年度は、土日祝に加え、GW、夏休み、クリスマス期間、バレンタイン期間等の特別運行を実施し、5月、10月の毎週金曜日にも夜間運行を行った。平成30年10月、北九州市が「日本新三大夜景都市」に認定されたことを機に、皿倉山の夜景観光客も増加しており、令和元年度は、毎週金曜日にも夜間運行を行い、更なる増客を図るとともに、北九州市の夜景観光に寄与していく。

## 4 乗客サービス向上

お客様ご意見箱の設置をはじめ、イベントの際のアンケートなどにより、顧客ニーズを的確に把握しサービスに反映するとともに、従業員全員による「笑顔で心からのおもてなし実践」を、日常業務や接客研修の中で指導徹底していく。

## V 令和元年度予算

予定損益計算書

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日 (単位：千円)

科 目	金 額
鋼 索 鉄 道 事 業	
営 業 収 益	94,466
営 業 費 用	105,544
営 業 利 益 ( ▲ 損 失 )	▲11,078
そ の 他 事 業	
営 業 収 益	44,309
営 業 費 用	24,225
営 業 利 益 ( ▲ 損 失 )	20,084
全 事 業 営 業 利 益 ( ▲ 損 失 )	9,006
営 業 外 収 益	1,807
営 業 外 費 用	224
経 常 利 益 ( ▲ 損 失 )	10,589
特 別 利 益	0
特 別 損 失	0
税 引 前 当 期 純 利 益 ( ▲ 損 失 )	10,589
法人税、住民税及び事業税	81
税 引 後 当 期 純 利 益 ( ▲ 損 失 )	10,508

## VI 役員名簿等

### 1 役員名簿

令和元年7月1日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役社長	吉田茂人	
専務取締役	欠員	
取締役	大下徳裕	北九州市企画調整局長
〃	小林一彦	北九州市総務局長
〃	小牧兼太郎	北九州市財政局長
〃	高松浩文	北九州市保健福祉局長
〃	鮎川典明	北九州市産業経済局長
〃	東義浩	北九州市建設局長
〃	上田浩	北九州市八幡東区長
〃	柴田憲志	北九州市八幡西区長
監査役	小島哲也	公認会計士
〃	久保田裕明	北九州市産業経済局地域・観光産業振興部長



2 市との特命随意契約の状況（平成 30 年度実績）

市からの特命随意契約による委託の状況			左のうち外郭団体からの再委託の状況				
委託業務名	委託金額 (千円)	特命理由	再委託の 業務内容	委託金額 (千円)	契約相手	契約方法	特命随意契約の 場合その理由
皿倉地区観光 来訪者対応業 務	20,403	参加者の有無を確認する公募 を実施した結果、参加者がな く、当該業務を履行可能なも のが1者しかいないことが確 認されたため。	館内清掃	1,344	社会福祉法 人北九州障 害者福祉事 業協会	随意契約 (特命)	障害者優先調達推 進法に基づく優先 発注のため。
			浄化槽保守	281	株式会社椛 組	随意契約 (特命)	山上という寒冷差 が大きい環境で、夜 間を含め臨機応変 に緊急対応できる 能力を有するため。
			昇降機設備保守	1,039	ダイコー株 式会社	随意契約 (特命)	対象設備の技術情 報を保有する同社 しか、速やかな故 障等への対応がで きないため。
			自家用電気工作 物保守	467	中原電気管 理事務所	随意契約 (特命)	他の電気動力設備 の保守管理と一体 的に実施すること で、円滑な業務の 実施が可能である ため。
			消防設備保守	73	株式会社東 和防災シス テム	その他	少額随意契約(1 件5万円以下) 2件
			空調設備保守	151	スガハラテ クノ株式会 社	その他	法令等による専門 知識や技術を要 し、作業等を実施 するための専門的 な設備・施設が必 要であるため。
皿倉山ケーブ ルカーオーバ ーホール等業 務	15,294	参加者の有無を確認する公募 を実施した結果、参加者がな く、当該業務を履行可能なも のが1者しかいないことが確 認されたため。	オーバーホール 等業務のうち、 作業に専門的な 設備・施設が必 要な部分	13,824	日本ケーブ ル株式会社	随意契約 (特命)	同社が製作・納品 したケーブルカー 施設で、業務実施 にあたっては特殊 な専門知識や技術 を必要とし、また、 作業を実施するた めの専門的な設 備・施設も備えて いる唯一の業者で あるため。
			オーバーホール 等業務のうち、 経年劣化したス ロープカー部品 の制作業務	669	株式会社嘉 穂製作所	随意契約 (特命)	作業を実施するた めの専門的な設 備・施設を備えて いる唯一の業者で あるため
			オーバーホール 等業務のうち、 車椅子用階段昇 降機整備業務	801	アビリティ ーズ・ケア ネット株式 会社北九州 支店	随意契約 (特命)	法令等による専門 知識や技術を要 し、作業等を実施 するため専門的な 設備施設が必要で あるため。

皿倉山イルミネーション設置業務委託	1,247	皿倉山各種施設に関わる電気系統との接続配線を行う必要があるため、皿倉山各施設の管理運営を行っている当該業者の管理下において実施する必要があるため。	皿倉山スロープカーの軌道に沿ってイルミネーションを設置	1,247	八幡電気工事業協同組合青年部	随意契約 (特命)	法令等による専門知識や技術を要し、電気工事を実施するため専門的な設備施設が必要であるため。 (皿倉山頂において毎年1回のイルミネーション設置を実施しており、皿倉山各施設の電気系統の知識に明るい)
帆柱自然公園及び皿倉登山道維持管理業務	3,171	参加者の有無を確認する公募を実施した結果、参加者がなく、当該業務を履行可能なものが1者しかいないことが確認されたため。	帆柱自然公園内の巡視・通報、公園利用者への指導等	500	特定非営利活動法人帆柱自然公園愛護会	随意契約 (特命)	帆柱自然公園内において、日常的に自然公園や動植物の保全・保護活動を行っていることから、その時々々の現地の状況を熟知し、当社と連携した的確な巡視、通報、指導が可能であるため。
			GW期間の表登山道入口通行止めにかかる警備及び誘導業務	755	安全警備株式会社	随意契約 (見積合わせ)	
			帆柱自然公園初日登山等警備業務	387	安全警備株式会社	随意契約 (見積合わせ)	
合計	36,943		合計	19,896			